

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

埼玉大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	5
《本文》	6
《判定結果一覧表》	19

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

埼玉大学は、総合大学として、時代を超えた大学の機能である知を継承・発展させ、新しい価値を創造することを基本的な使命とする。

第1の基本目標として、埼玉大学は、次代を担う人材を育成する高度な教育を実施するとともに、多様な学術研究を行って新たな知を創造し、これらの成果を積極的に社会に発信して、存在感のある教育研究拠点としてより一層輝く。

第2の基本目標として、埼玉大学は、産学官の連携によって、知の具体的な活用を促進し現代が抱える諸課題の解決を図るとともに、地域社会とのコミュニケーションを積極的に図り、そのニーズに応じた人材を育成して、広域地域の活性化中核拠点としての役割を積極的に担う。

第3の基本目標として、埼玉大学は、海外諸機関との連携を推進して、多様なグローバル人材を育成するとともに、人類が抱える世界的諸課題に学術成果を還元し、国際社会に貢献する。

埼玉大学は、多様なニーズやリソースを持つ首都圏の一角を構成する埼玉県にあって、唯一の国立大学であるという特性を最大限に活かし、これらの基本目標の達成に向けてまい進する。

埼玉大学は、より一層の個性化を目指し、平成28年に「埼玉大学 ACTION PLAN 2016-2021」を策定した。そこでのキーワードは、「多様性と融合の具現化」である。このプランのもとで、文系、理系、教員養成系の多様な学部と学問が、日本人、外国人、社会人の多様な学生と教職員が1キャンパスに集まるという特徴を強みとして、普遍的な知の府としての基盤強化と、地域活性化拠点として首都圏埼玉に根ざした大学の個性化とを軸として、機能強化を進めることとした。そして、このために、3つの戦略を立て、そのもとに個性の伸長に向けた取組を策定し、着実に大学改革に取り組んできている。

1. 地域活性を目指した融合科学研究・開発の推進と人材育成（戦略1）

地域活性化拠点として、産学官連携による地域課題の解決と人材育成という埼玉大学としての個性化を進め、「多様性と融合の具現化」を目指している。先端産業の創造・集積という首都圏埼玉の課題の解決と関連人材育成のため、理工学研究科と人文社会科学研究科を1キャンパスに有する埼玉大学において、地域の産学官連携により、文理融合科学研究・開発を推進、イノベーションを創出して地域活性を行う。

2. 地域ニーズに即した人材育成と教員養成（戦略2）

首都圏埼玉の地域ニーズに応じた人材育成により、「多様性と融合の具現化」を目指している。学生の入学から、学修、生活、卒業、就職までを一貫して支援するキャリアサポート体制を強化し、教職大学院での教育委員会との連携も含め、地域における多様な産学官連携を通じて、地域に貢献する多様なグローバル人材を育成し、質の高い実践的教員を養成する。

3. 強みを有する分野の国際教育研究拠点化（戦略3）

大学の主たる使命が知の創造と継承であることをしっかりと据え、研究力と人材育成力の強化という知の府としての基盤強化を進め、「多様性の融合と具現化」を目指している。国際的教育研究ネットワークを活かし、世界水準の特色ある理工系研究を一層推進して人材・知の「地域・国際大環流」を創出するとともに、文系・理系の国際教育プログラムの充実や「多文化キャンパス」の創造により、さらなる国際教育研究拠点化を進める。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

<戦略1の下での取組>

- 文理融合教育として、埼玉県との意見交換も経て、地域企業から提示された課題を学生がフィールドワーク等を通じて解決する「課題解決型プログラム」を、全学部生が学部横断的に履修できるように、平成29年に導入した。(関連する中期計画1-1-1-1、1-1-2-1、1-1-2-2、3-1-1-1、3-1-3-2)
- 文理融合教育プログラム「イノベーション人材育成プログラム」を、平成30年度、工学部に、学科横断型の科目として導入した。このプログラムでは、クロスポイントメントで採用した実務家教員による「課題解決型」の授業も設けた。(関連する中期計画1-1-1-1、1-1-2-2、1-2-1-1、3-1-1-1)
- 文理融合教育を全学的にさらに展開することも目指して、平成29年に、教学担当理事、各学部長・研究科長からなる学士課程教育検討PTを設けた。この下に、学士課程の授業科目を分類し、科目群ごとに学部横断的に教員を選任してWGを設け、授業内容の検討を行った。そして、学部間連携の文理融合教育を着実に展開するため、令和2年度より、このPTを新たに「教育企画室」として組織化した。また、令和元年度までの検討の結果、令和2年度より、手始めに数理・データサイエンス教育を全学部学生に展開することを決定した。(関連する中期計画1-1-1-1、1-2-1-1)
- 教員の多様性を確保するため、「戦略的ポストサイクルシステム」を導入し、これに基づいて女性限定公募を実施し、採用に結び付けた。(関連する中期計画1-2-1-3)
- 実務家教員によるPBL(Project-Based-Learning)型授業として、平成28年に理工学研究科に、「課題解決型特別演習」を開設した。(関連する中期計画1-1-1-2)
- 地域産学官金の協働インターフェイスとして、平成28年4月に先端産業国際ラボラトリーを設置した。ここに、人的ネットワークの場としての共創型ワークショップ・スペース、研究開発・試作・製品化・事業化を一貫して行うための先端産業インキュベーション・スペースを置いた。また、「彩の国健康・医療イノベーション・エコシステム」の構築も目指して、ヘルスケアとメディカルの2つのイノベーション研究ユニットを設けた。(関連する中期計画2-1-2-2、3-1-2-2)
- 埼玉大学発のバイオベンチャー企業として、平成28年8月に、先端産業国際ラボラトリーから、独自に開発した高速分子進化法を創薬に応用する企業、株式会社 Epsilon Molecular Engineering (EME) 社が、起業した。(関連する中期計画3-1-2-2)

<戦略2の下での取組>

- 地域ニーズに即した人材育成と教員養成に大学全体として取り組むため、統合キャリアセンターSUを、平成28年4月に設置した。そして、人材育成を通じた地域活性化拠点としての役割を果たすために、たとえば産学官コラボインターンシップを担当するスーパーバイザーを配置して、県や地域企業と連携した課題解決型インターンシップを実施している。(関連する中期計画1-3-1-1、1-3-2-1、1-3-2-2、3-1-1-1、3-1-3-2)
- 教職大学院を、平成28年4月に開設した。「教育実践力高度化コース」と「発達臨床支援高度化コース」とからなり、埼玉県等の教育委員会と連携し、研究者教員と実務家教員の協働による、理論と実践の融合型カリキュラムを組んでいる。また、地域の現職の教員が学びやすい環境も整えた。(関連する中期計画1-1-1-4、1-2-1-3、1-4-2-1、3-1-1-1、3-1-1-2、4-2-1-1、4-2-1-2)
- 入試改革検討WGにおいて、「思考力・判断力・表現力」を問う大学入試共通テストにおける観点や、文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業で公表された評価方法・問題例をとりまとめて、これらを参考に令和3年度入試を設計した。(関連する中期計画1-4-1-1)
- 「主体性・多様性・協働性」に関する新たな入試方法として、工学部の一般入試前期日程で課

した「小論文」について、小論文の成績と入学後の GPA 等について検証した。また、工学部以外の学部は、工学部の経験を踏まえて、新たな入試の導入を検討しており、たとえば理学部は新しい入試の導入を決定した。(関連する中期計画 1-4-1-1、1-4-1-2)

<戦略3の下での取組>

- 強みを有する研究分野への人的・物的資源集中により研究力強化を図るため、理工学研究科に戦略的研究部門として、「ライフ・ナノバイオ」、「グリーン・環境」、「感性認知支援」の3領域を設置している。これら3領域は、URA オフィスとの連携の下で、質の高い研究論文数、国際共著論文率、国際共同研究プロジェクト数が延びるなど、着実に成果を上げている。平成29年度には「X線・光赤外線宇宙物理」領域を追加して、さらなる展開をしている。(関連する中期計画2-1-1-1、2-1-1-2、2-2-1-1、2-2-4-1)
 - 文理融合などの学際領域研究の推進として、URA の分析を基に、東アジア SD 研究を戦略的研究領域とし、この研究推進体制整備のため、人文社会科学研究科の教員に加えて理工学研究科の教員も参加する「東アジア SD 研究センター」を設置した。(関連する中期計画2-1-1-2、2-2-1-2、2-2-3-1)
 - 幅広い視野と課題解決の応力を備えた理工系人材育成の量的強化のため、理工学研究科博士前期課程の入学定員を、平成28年度までに100名増員した。また、理工系人材育成の質的強化のため、文理横断型6年一貫教育プログラムも構築した。(関連する中期計画1-1-1-1、1-2-1-2)
 - 高度な専門性を有した人材を育成するため、教養学部、経済学部、人文社会科学研究科は、5年一貫プログラムを導入し、このプログラムを履修した学部卒業生が大学院博士前期課程に入学した。(関連する中期計画1-1-1-1、1-1-1-3)
 - 留学生支援策を充実させ、中期目標に掲げられた数値目標、受入留学生800名、派遣留学生300名を、ともに4年目終了時に達成した。(関連する中期計画4-1-1-1、4-1-1-2)
 - 日本人学生と外国人学生との交流を深めるため、独自の基金を設立し、これにより混住型の学生寮を建設した。(関連する中期計画4-1-1-1)
 - 教養学部はアメリカ・アーカンソー州立大学、経済学部はフランス・パリ第7大学と、それぞれ学部レベルのダブルディグリー・プログラムを締結し、経済学部では修了生を出した。(関連する中期計画(関連する中期計画1-1-1-3、4-1-2-1))
 - 理工学研究科は、台湾交通大学との博士後期課程のダブルディグリー・プログラムを締結し、修了生を出した。(関連する中期計画4-1-2-1)
 - 理工学研究科は、意欲と能力の高い大学院生を対象として、科学的戦略能力と国際化対応力の体系的・主体的な獲得を支援する「Lab-to-Lab 国際大学院教育プログラム」を海外協定校との連携の下に構築し、研究室間レベルでの共同教育・共同研究を実践した。(関連する中期計画4-1-2-1)
 - 英語のみで修了できる大学院教育プログラムを人文社会科学研究科と理工学研究科に設けた。理工学研究科では、平成29年度に「環境社会基盤国際プログラム」が文部科学省の「2017年度国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に選定され、さらに翌平成30年度にも「独立電源システムを基盤とした社会インフラ整備のための実践的人材育成プログラム」と「発展途上国貧困地域に適用するグリーン・サステナブルケミストリー開発を担う人材育成プログラム」が、この特別プログラムに選定された。(関連する中期計画1-4-2-1)
- [戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]
- イノベーション創出と地域活性を目指した融合科学研究・開発の推進と人材育成
イノベーションの創出に資する地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働教育により理工系人材育成の質的強化を図り、学内組織の連携による文理融合研究プロジェクト

等の構築を通じて学際領域研究を促進する。さらに、新たな組織として「先端産業国際ラボ」を設置し、産学官金の連携による共創スペース等の導入により、地域活性化中核拠点としての役割を果たす。

その際に、混合給与（クロスアポイントメント）等に基づく地域企業人の登用により教育研究の活性化を図るとともに、学長のリーダーシップのもとで、学内資源を安定的に確保し、戦略的・重点的な配分を行う。

（関連する中期計画 3-1-2-2）

○地域ニーズに即した人材育成と教員養成

地域志向科目の創設や県内インターンシップの拡充など地域を志向した教育環境を充実させ多様な人材を養成し輩出する。また、実践的なカリキュラムの充実や総合大学の特性を活かした学部・研究科間の連携強化、さらに、教育委員会との連携強化によって、質の高い教員養成を推進する。

これらの取組を実施するため、学生のキャリア形成を総合的に支援する「統合キャリアセンターSU」を設置するとともに、学長のリーダーシップのもとで、学内資源を安定的に確保し、学生定員の見直しなど戦略的・重点的な配分を行う。

（関連する中期計画 1-3-1-1、3-1-1-2）

○文理融合の実践と強みを有する分野の国際教育研究拠点化

多様な授業科目を4年又は6年間で年次を追って配置し、大学総体で文理融合教育を実践する。また、研究面において、強みを有する研究領域を特定した理工学研究科戦略的研究部門を中心に世界水準の研究を推進するとともに、URAオフィスの機能を活用して新たな強みや特色のある研究分野を特定し、教育研究拠点化を促進する。

また、グローバルな視点での教育研究拠点化として、学年暦の柔軟化等により学修環境を整えるとともに、キャンパスのグローバル化を促進して、留学生の受入と派遣の数を飛躍的に増加させる。

これらの取組を実施するため、学長のリーダーシップのもとで、学内資源を安定的に確保し、学生定員の見直しなど戦略的・重点的な配分を行う。

（関連する中期計画 1-1-1-1、2-1-1-1、2-1-1-2、2-2-1-2、4-1-1-1、4-1-1-2）

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、埼玉大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 進捗して いる	【2】 十分に進 捗しているとはい えない	【1】 進捗して いない
I 教育に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			3		
3 学生への支援に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			3		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
II 研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			4		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
	なし			3		
IV その他の目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 グローバル化に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			3		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
○文科系・理科系の学術分野を融合した教育プログラムを学士課程4年又は修士課程・修士課程6年一貫教育において実施するとともに、大学院課程を中心とした人材育成の質的強化を図り、幅広い視野と学術の専門基礎、専攻分野の専門性、優れた思考力・行動力等確かな教養を有する人材を社会に送り出す。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》 (特色ある点) ○ 文理融合の課題解決型プログラム 文理融合教育実践の一環である課題解決型プログラムについて、埼玉県との意見交換を実施し、平成29年度に導入している。同プログラムは、企業から提示された課題に対し、グループディスカッションやフィールドワーク等のアクティブラーニングを通して課題解決策を導き出すように設計されている。(中期計画1-1-1-1) ○ 工学部での文理融合型教育 工学部において、平成28年度から平成29年度に高校2年生(51高校、6,517名)および民間企業(189社)に対して、新カリキュラムに関するアンケートを実施し、この結果を踏まえて、文理融合教育を目的とするイノベーション		

	ン人材育成プログラムを学科横断的に導入している。(中期計画 1-1-1-2)	
小項目 1-1-2	判定	判断理由
○全学の教育システム及びマネジメントを見直し、教育の方法及び質を向上させる仕組みを充実させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している
	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。	
	《特記事項》	
該当なし		

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-2-1	判定	判断理由
○ 「(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標」を達成するため、文科系と理科系との組織の枠を越えた連携・協力体制の整備に加えて、全学的な教員間の協働体制及び地域の産学官の連携・協力体制を構築するとともに、適切な教職員の配置を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している
	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。	
	《特記事項》	
(特色ある点)		
○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 コロナ禍のインターンシップに際し、受入先企業に対し、文書で感染対策が講じられているかを確認し、確認の取れた企業に学生を派遣している。また、通信環境の整っていない学生への Wi-Fi ルーター貸与、オンライン新入生ガイダンスの実施、各学部におけるオンライン履修相談体制をとっているほか、寄附金を財源とする給付型の独自奨学金制度を設けている。この他、教員に対してはオンライン授業に関する支援 (オンライン教育に関する情報共有の仕組みの構築、FD の実施) を行っている。		

小項目 1-2-2	判定		判断理由
○学修効果のある質の高い教育を実施するため、学生の学修行動様式に照らした教育環境を充実する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-2-3	判定		判断理由
○教育の質の改善のためのシステムを確立するとともに、学生の学修成果を把握・評価する体制を充実する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-3-1	判定		判断理由
○今後の社会の形成者として必要な態度・素養と主体性・協働性等の行動性向を身に付けられるように、学生の実態を把握しつつ、体制を整備し適切な支援活動を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ メンタルヘルスに関する相談体制の整備 ハラスメント、精神障がい・発達障害・心理的問題、学		

	業以外の生活、将来への悩み等、学生が修学上直面するあらゆる相談に対応するため、学内機関のなんでも相談室、保健管理センター、ダイバーシティ推進オフィスと連携する相談体制の充実に努めるとともに「なんでも相談室勉強会」、「メンタルヘルスケア連絡会」を実施している。また、チャットボットを導入し、24時間学生からの質問に答えられる仕組みを整えている。これらの取組により、なんでも相談室の相談件数は、平成28年度349件から令和元年度985件に増加している。（中期計画1-3-1-1）	
小項目 1-3-2	判定	判断理由
○経済的困難のある学生、障がいのある学生及び外国人留学生など、特別な援助・支援を要する学生が安心して学業に集中し、充実した学生生活を送ることができるよう、相談に応じ、支援を行う。	【3】 中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
《特記事項》		
該当なし		
小項目 1-3-3	判定	判断理由
○学生が適性に応じた職業を自ら選択できる能力を育成するためのキャリア形成に資する就職支援を行う。	【3】 中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
《特記事項》		
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 新しい就職支援ツールの導入</p> <p>新たな就職支援ツールとして「LINE@」を導入し、各種就職セミナー等の開催案内・就職情報発信及び参加受付予約を開始し、ウェブサイト「OBOGプラットフォーム」を平成29年度より開設して、OBOGリストや就職活動の体験談やアドバイスの発信を行い、LINE@を通じて得た学生ニーズからOBOGプラットフォームの機能を改善している。（中期計画1-3-3-1）</p>		

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
 (判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
○ 学士課程の入試では、アドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の入学者選抜から脱却し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を適切に評価する多面的・総合的な選抜に転換する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 1-4-2	判定		判断理由
○ 大学院課程の入試では、日本人学生・留学生・社会人学生など多様な調和的存在のなかで教育・研究を進めるために、留学生や社会人を積極的に受け入れる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 大学院教育のグローバル化 英語による大学院教育プログラムとして、これまでの「環境社会基盤国際プログラム」に加え、「独立電源システムを基盤とした社会インフラ整備のための実践型人材育成プログラム」及び「発展途上国貧困地域に適用するグリーン・サステナブルケミストリー技術開発を担う人材育成プログラム」を令和元年度に開設している。なお、これらプログラムは、文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に選定されている。(中期計画 1-4-2-1) ○ 社会人向けのインテンシブ・プログラムの実施 人文社会科学研究科 (経済経営専攻) では、基礎能力がすでに高い社会人向けに前期課程から後期課程の博士号取		

	<p>得まで短縮修了を可能にする「インテンシブ・プログラム」、コースワークに重点を置いて学位論文に代えて特定課題研究成果物を審査する「課題研究プログラム」を導入している。(中期計画 1-4-2-1)</p>
--	---

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
○大学として強みや特色のある研究分野について、全国的な研究拠点として推進し、世界水準の研究分野へダイナミックに展開するとともに、学際領域をはじめとする多様性のある学術研究を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 2-1-2	判定		判断理由
○強みや特色のある研究成果を積極的に公開するとともに、本学の持つ研究力を結集して首都圏地域における自治体・企業・地域社会が抱える課題の解決やイノベーション創出に資する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 4項目のうち、4項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
○強みや特色のある研究成果を生むための効果的な研究実施体制の整備を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 2-2-2	判定		判断理由
○大学の研究戦略に即した研究環境整備を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 時間回復プロジェクトチームの設置 学長室に研究力/人材育成力の強化に向けた「時間回復プロジェクトチーム」を設置し、教員の管理運営業務負担を見直している。負担軽減策として、会計業務サポート強化、試験監督業務の軽減、検収業務の軽減、教授会での審議事項の最小化、Web投票の導入計画等を策定し、関係部局へ実施を促すことにより、教員の管理運営業務にあてられていた時間を削減している。(中期計画 2-2-2-1)		

小項目 2-2-3	判定		判断理由
○強みや特色のある研究分野等において、世界水準の研究を推進するための研究環境を醸成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 2-2-4	判定		判断理由
○客観的データ等に基づき、研究の質を向上させるシステムを充実する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都圏地域社会に輩出する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 3-1-2	判定		判断理由
○強みや特色のある研究力の強化と、自治体・企業・地域社会との連携による、事業化・起業等を見据えた応用研究・開発力の強化を一層推進し、首都圏地域社会の活性化に資する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 首都高速道路の工期短縮への貢献 首都高速道路株式会社との包括連携を締結し、協定の一環として、共同研究した DAK プレキャスト壁高欄(鉄筋コンクリート製壁高欄を工場で製作し、現場に運んで組み立てる)の実大載荷実験を実施し、首都高速道路として初めての採用につなげている。なお、このプレキャスト壁高欄は、板橋 JCT～熊野町 JCT における渋滞解消のための車線拡幅工事の工期短縮のために用いられている。(中期計画 3-1-2-1)		

小項目 3-1-3	判定		判断理由
<p>○埼玉県、さいたま市、及び地域貢献に関する協定締結先機関との連携活動を、学内諸組織との協働や学生の参画をもってより一層強化する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域と連携した学生による課題解決 学生が参加する連携活動として、県、地域企業との連携による課題解決型プログラムの他、埼玉県、さいたま市への政策提言の場を設け「ピクトグラム入りうちわ」の提言などが政策として実施されている。(中期計画 3-1-3-2)</p> <p>○ 企業連携に基づく課題解決型インターシップ JR 東日本大宮支社との連携協定に基づき、課題解決型インターンシップ授業を開講している。なお、この授業では、教育学部の学生が、栄養学に関する授業カリキュラムの中で考案したレシピのアイデアをもとに、JR 東日本大宮駅構内商業施設のショップ「イーションベジプラス」と共同開発したお弁当が商品化されている。(中期計画 3-1-3-2)</p>		

IV その他の目標（大項目4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) グローバル化に関する目標（中項目4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
○専門分野に応じた有能なグローバル人材を育成するため、研究を通じた普遍的な国際教育プログラムを国際連携により深化させるとともに、戦略的に留学生の受入、派遣人数の飛躍的増加を図るため、地域活性化にも着目したキャンパスのグローバル化を促進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	<<特記事項>> 該当なし		
小項目 4-1-2	判定		判断理由
○国境を越え海外の優れた高等教育機関等との教育連携や研究者間レベルでの共同研究を飛躍的に促進し、グローバル化が進む社会の特定分野に貢献する人材育成を図る。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	<<特記事項>> 該当なし		

小項目 4-1-3	判定		判断理由
○海外の高等教育機関等向けに特色ある取組みを国際広報する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目1 教育に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.11 うち現況分析結果加算点 0.11
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.00
小項目1-1-1 ○文科系・理科系の学術分野を融合した教育プログラムを学士課程4年又は学士課程・修士課程6年一貫教育において実施するとともに、大学院課程を中心とした人材育成の質的強化を図り、幅広い視野と学術の専門基礎、専攻分野の専門性、優れた思考力・行動力等確かな教養を有する人材を社会に送り出す。	【3】	進捗している 2.25
中期計画1-1-1-1(★)(◆) ○文理融合教育を実践するため、教養・専門基礎・専門・異分野専門基礎科目、グローバル・地域連携関連科目等の多様な授業科目を4年又は6年の間で年次を追って配置する。特に工学部では、現代的課題解決に資する工学と社会科学の融合も含めた新たな教育プログラムを学科横断で導入する。 その際に、本学に対するステークホルダー(在学生、卒業生、地域産業界等)のニーズを恒常的に把握するとともに、進路状況等の客観的データに基づき、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの妥当性を常に検証する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-2(★) ○理工系人材育成の質的強化を図り、新たな価値を創造し社会変革(イノベーション)を起こし得る力を養成するため、理工学研究科では、大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働教育により、実務教育を実施するとともに、社会人の大学院進学に繋がるノンディグリープログラムの拡充など、社会人の学び直しの場を整備する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-3(★) ○人社系人材育成の質的強化のため、教養学部、経済学部及び人文社会科学研究科では、ダブル・ディグリー制度、アジア文化交流研究等のグローバルな素養を涵養する教育プログラムを通して、社会構造の変化に的確に応え、教育課程と指導体制を充実・強化する。また、社会人の大学院進学に繋がるノンディグリープログラムの拡充など、社会人の学び直しの場を整備する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-4(★) ○教員養成の質的強化のため、教育学部及び教育学研究科では、学校現場での経験者教員による授業の実施など小学校教員養成を重視した実践的なカリキュラムの下に、質の高い小学校教員を養成するとともに、総合大学の特性・専門性を活かし他学部・研究科との連携を強化して、質の高い中学校教員等を養成する。	【2】	中期計画を実施している
小項目1-1-2 ○全学の教育システム及びマネジメントを見直し、教育の方法及び質を向上させる仕組みを充実させる。	【3】	進捗している 2.00
中期計画1-1-2-1(★) ○カリキュラム・ポリシーに基づき、アクティブ・ラーニングの普及、学修時間の確保・増加、学修成果の可視化、4学期制(クォーター制)に基づいた学士課程プログラムの整備など、教育の質を向上させる全学的な教学マネジメントシステムを確立する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-2-2(★) ○インターンシップ等の学外学修による課題解決型の学修を積極的に取り入れる。その効果を学生アンケートの自己評価や学修成績の分析により検証し、達成度評価による目標到達度80%以上の学生が80%以上となるよう促進する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-2-3 ○「学生が何を身に付けたか」を、各授業科目の到達目標に応じた厳格な成績評価のもとカリキュラムマップ及び学生の履修記録により把握し、ディプロマ・ポリシーに合致する学位授与を行う。	【2】	中期計画を実施している

埼玉大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目1-2	教育の実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-2-1	○「(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標」を達成するため、文科系と理科系との組織の枠を越えた連携・協力体制の整備に加えて、全学的な教員間の協働体制及び地域の産学官の連携・協力体制を構築するとともに、適切な教職員の配置を行う。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-1-1(★)	○文理融合の教育課程を具現化するため、教養学部・経済学部・人文社会科学研究科及び理学部・工学部・理工学研究科とが連携した教育を実施するなど、全学的な教員間の協働体制を整備する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-1-2(★)	○理学部、工学部及び理工学研究科では、6年一貫教育体制を整備するとともに、大学院課程における大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働教育体制を整備する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-1-3(★)	○教員採用や配置にあたっては、教員の年齢構成を平準化し、女性教員・外国人教員の割合を高めることなどにより、多様な教員構成とする。また、教育学部及び教育学研究科では、実践型教員養成機能への質的転換のため、学校現場での経験者教員を20%確保する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-2-2	○学修効果のある質の高い教育を実施するため、学生の学修行動様式に照らした教育環境を充実する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-2-1	○ティーチング・アシスタント(TA)及びブチューデント・アシスタント(SA)等による教育の補助体制を、TA・SA研修会の実施や学生アンケートの結果を踏まえた改善等により充実させるとともに、学生の学修行動様式や自主的学修環境の利用状況を把握し、学生の自主的学修に適した教育環境を充実する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-2-3	○教育の質の改善のためのシステムを確立するとともに、学生の学修成果を把握・評価する体制を充実する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-3-1	○教育課程の体系化、教育方法、教育の質保証等について、計画から実施、点検・評価、改善までの一連のPDC Aサイクル機能である教学マネジメントシステムを、教育企画室において構築する。併せて、教員のファカルティ・ディベロップメント(FD)研修を強化するとともに、ステークホルダーに対する意見聴取を活用するなど、教育の質保証の仕組みを充実する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-3	学生への支援に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-3-1	○今後の社会の形成者として必要な態度・素養と主体性・協働性等の行動性向を身に付けられるように、学生の実態を把握しつつ、体制を整備し適切な支援活動を行う。	【3】	進捗している	2.50
中期計画1-3-1-1(★)(◆)	○教育機構、学部・研究科が連携して、全学生を対象に修学や生活に関する意識・ニーズ調査を実施し、実情を把握・分析する。その調査・分析結果及び支援分野別の満足度調査の結果を踏まえて、体制を充実させ新たに設置する統合キャリアセンターSU(仮称)において、支援活動を改善させていくとともに、満足度を向上させる。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-3-1-2	○学生への学修支援や生活支援等についての教職員の理解と学生指導・支援のスキルを向上させるため、FD及びスタッフ・ディベロップメント(SD)のWeb講習会参加など研修会を充実する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-3-2	○経済的困難のある学生、障がいのある学生及び外国人留学生など、特別な援助・支援を要する学生が安心して学業に集中し、充実した学生生活を送ることができるよう、相談に応じ、支援を行う。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-2-1(★)	○統合キャリアセンターSU(仮称)は、経済的困難のある学生に対する授業料免除、奨学金給付等の対象者の割合やニーズの把握による制度の検証を行い、適切な支援を行う。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	<p>中期計画1-3-2-2(★)</p> <p>○統合キャリアセンターSU(仮称)、国際本部は、学部・研究科と連携して障がいのある学生、外国人留学生等がどのような援助・支援を要するのか把握し、個々の事情に応じたきめ細やかな支援を行う。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>小項目1-3-3</p> <p>○学生が適性に応じた職業を自ら選択できる能力を育成するためのキャリア形成に資する就職支援を行う。</p>	[3]	進捗している	2.00
	<p>中期計画1-3-3-1</p> <p>○学生にキャリア形成を意識させるため、教育機構は全学共通に対応すべき事項、学部・研究科は個別事情に応じた事項、国際本部は外国人留学生に係る事項について、それぞれ密接な連携の下で、セミナー等支援活動の満足度や就職率等を踏まえた効果的な支援を行う。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>中期計画1-3-3-2</p> <p>○埼玉大学産学官連携協議会、さいたま市等と連携して、恒常的に合同企業説明会を実施する。</p>	[2]	中期計画を実施している	
<p>中項目1-4</p> <p>入学者選抜に関する目標</p>		[3]	順調に進んでいる	3.00
	<p>小項目1-4-1</p> <p>○学士課程の入試では、アドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の入学者選抜から脱却し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を適切に評価する多面的・総合的な選抜に転換する。</p>	[3]	進捗している	2.00
	<p>中期計画1-4-1-1(★)</p> <p>○アドミッション・ポリシーを見直し明確化するとともに、「確かな学力」を育む高等学校教育と本学の教育を適切に接続させるため、明確化したアドミッション・ポリシーに基づき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法を導入する。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>中期計画1-4-1-2(★)</p> <p>○入学者の学修状況等に関する追跡調査を実施し、アドミッション・ポリシーに沿った人材像となっていたか、入試選抜の適切性を検証し、その結果を選抜方法等にフィードバックする。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>小項目1-4-2</p> <p>○大学院課程の入試では、日本人学生・留学生・社会人学生など多様な調和的存在のなかで教育・研究を進めるために、留学生や社会人を積極的に受け入れる。</p>	[3]	進捗している	2.00
	<p>中期計画1-4-2-1(★)</p> <p>○大学院課程では、留学生や社会人に魅力ある教育プログラムを整えるとともに、英語による面接、在外受験及び多様な社会人に対応した特別選抜など、留学生や社会人が受験しやすい選抜方法を導入・充実する。</p>	[2]	中期計画を実施している	
<p>大項目2</p> <p>研究に関する目標</p>		[3]	順調に進んでいる	3.00 うち現況分析結果加算点 0.00
<p>中項目2-1</p> <p>研究水準及び研究の成果等に関する目標</p>		[3]	順調に進んでいる	3.00
	<p>小項目2-1-1</p> <p>○大学として強みや特色のある研究分野について、全国的な研究拠点として推進し、世界水準の研究分野へダイナミックに展開するとともに、学際領域をはじめとする多様性のある学術研究を推進する。</p>	[3]	進捗している	2.33
	<p>中期計画2-1-1-1(★)(◆)</p> <p>○大学院理工学研究科に設置した戦略的研究部門(ライフ・ナノバイオ領域、グリーン・環境領域、感性認知支援領域)において、国際共同研究を進め、高水準の学術論文等その成果を発信するとともに、国際共著論文の割合を増やし、強みのある先端的研究分野として世界水準の研究を推進する。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	<p>中期計画2-1-1-2(★)(◆)</p> <p>○リサーチ・アドミニストレーター(URA)オフィスを中心としたインスティテューショナル・リサーチ(IR)による本学研究活動の状況分析等により、新たな強みや特色のある研究分野を特定し、全国的な研究拠点化を図るとともに、さらには世界水準の研究分野へ推進する。</p>	[2]	中期計画を実施している	
	<p>中期計画2-1-1-3</p> <p>○研究分野の多様性に配慮しつつ、研究費等の支援により文理融合などの学際領域研究を推進し、新たな強みや特色のある研究分野へ成長させる。</p>	[2]	中期計画を実施している	

埼玉大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目2-1-2	○強みや特色のある研究成果を積極的に公開するとともに、本学の持つ研究力を結集して首都圏地域における自治体・企業・地域社会が抱える課題の解決やイノベーション創出に資する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-1-2-1	○強みや特色のある研究成果をホームページで公開するとともに、マスメディアを活用し、首都圏地域における自治体・企業・地域社会等に対して積極的に情報を提供することで社会に還元する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-2-2(★)	○埼玉県・首都圏地域をはじめとした自治体・企業・地域社会のニーズを把握し、本学が持つシーズとのマッチングを図り、その課題解決やイノベーション創出を図るための研究を推進する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目2-2	研究実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-2-1	○強みや特色のある研究成果を生むための効果的な研究実施体制の整備を行う。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-1-1(★)	○戦略的研究部門や新たな強み及び特色のある研究分野に対して、重点的に若手研究者や研究支援者等の配置を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-2(★)(◆)	○文理融合など学際領域研究を促進するために、人文社会科学研究科及び理工学研究科等の連携による融合研究プロジェクト等を構築する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-3	○優秀な若手研究者人材確保・育成のためのテニュアトラック制の定着を図り、新規採用者のうちテニュアトラック教員の割合を25%とすることを旨とする。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-2-2	○大学の研究戦略に即した研究環境整備を行う。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-2-1	○施設・設備に関するマスタープランに基づき、計画的・継続的なスペースの確保や研究設備の整備を行い、効果的な研究環境整備を推進する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-2-3	○強みや特色のある研究分野等において、世界水準の研究を推進するための研究環境を醸成する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-3-1(★)	○学術交流協定締結校をはじめとする海外の大学等研究機関等との国際共同研究、人的交流及び相互啓発活動を推進する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-2-4	○客観的データ等に基づき、研究の質を向上させるシステムを充実する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-4-1(★)	○各研究科等は、URAオフィスとの連携により、論文の引用数等IRによるデータ指標を活用し、強みや特色のある研究分野の検証を行うなど、研究の質を向上させる仕組みを充実する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
	なし	—	—
小項目3-1-1 ○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都圏地域社会に輩出する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画3-1-1-1(★) ○大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働による実務教育の実施、地域志向科目の創設、県内インターンシップの充実など、地域を志向した教育環境を充実させ、首都圏地域社会にイノベーション人材、グローバル人材等の多様な人材を輩出する。また、大学と教育委員会との連携により、一貫した教員養成・研修による教員の資質向上を図る。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-2(★)(◆) ○平成28年度の教育学研究科専門職学位課程の設置に伴い、平成33年度末には、修了者の教員就職率を90%とし、また、専門職学位課程の設置と連動させて、教育学部では、県内における小学校教員養成の拠点機能を果たすべく実践的な教育を充実させ、平成33年度末には、小学校教員採用の県内占有率35%を確保する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目3-1-2 ○強みや特色のある研究力の強化と、自治体・企業・地域社会との連携による、事業化・起業等を見据えた応用研究・開発力の強化を一層推進し、首都圏地域社会の活性化に資する。	【3】	進捗している	2.50
中期計画3-1-2-1 ○オープンイノベーションセンター及び社会調査研究センターを中心に自治体・企業・地域社会における課題やニーズの把握に積極的に取り組み、これらの多様な社会セクターと連携した研究活動等を推進する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画3-1-2-2(★)(◆) ○先端産業国際ラボ(仮称)を設置し、事業化・起業等を見据えた産学官金の連携による共創スペース等の導入により、地域活性化中核拠点としての役割を果たす。	【2】	中期計画を実施している	
小項目3-1-3 ○埼玉県、さいたま市、及び地域貢献に関する協定締結先機関との連携活動を、学内諸組織との協働や学生の参画をもってより一層強化する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画3-1-3-1 ○自治体、産業界との連携による公開講座、セミナー等を積極的に開催するとともに、高校生等の地域住民が大学教育に触れる機会を提供する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-3-2(★) ○学生の地域社会への関心の涵養に資するため、自治体等への政策提言や大学と地域企業等との双方向コミットメントによる課題解決型プロジェクト等への参画を通じて、学生による地域社会への貢献を支援する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-3-3 ○研究成果発信の一環としての各種イベント出展等を学内組織協働の下に推進する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目4 その他の目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目4-1-1 ○専門分野に応じた有能なグローバル人材を育成するため、研究を通じた普遍的な国際教育プログラムを国際連携により深化させるとともに、戦略的に留学生の受入、派遣人数の飛躍的増加を図るため、地域活性化にも着目したキャンパスのグローバル化を促進する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-1-1(★)(◆)(*) ○4学期制(クォーター制)の導入による留学しやすい環境・条件の整備とともに、外国人教員の教員数比率を約10%まで増加、英語による授業の拡大、留学生と日本人学生が共に履修するアクティブ・ラーニング授業科目の開設、アカデミック・アドバイザー、カリキュラムの国際通用性向上等を通じ、留学生支援体制の強化・充実に図り、さらに、混住型の国際学生寮を整備するなど、グローバル・キャンパス構築のための学内環境を整え、留学生の受入数が800名程度(学生数比率約9%)となるよう促進する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-2(★)(◆)(*) ○短期海外研修プログラム、協定校との交換留学プログラム(国際本部)をはじめ、各学部・研究科で実施する海外派遣プログラムなどの拡充により、海外派遣促進及び研究交流実績の活性化を図り、海外派遣学生数が300名程度(学生数比率約3%)となるよう促進する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-3 ○日本人学生・留学生等の互い同士が調和して地域交流活動等へ参画できるよう、学内の学生団体への支援や埼玉県内の関係団体等との連携を推進する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目4-1-2 ○国境を越え海外の優れた高等教育機関等との教育連携や研究者間レベルでの共同研究を飛躍的に促進し、グローバル化が進む社会の特定分野に貢献する人材育成を図る。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-2-1(★) ○海外の協定校等とのダブルディグリー・プログラムの着実な実施と更なる拡充を図る。また、従前から取り組んできた研究者間交流を基盤とする理工系のLab-to-Labプログラムにおける特色ある取組みを、全学的に展開し実施する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目4-1-3 ○海外の高等教育機関等向けに特色ある取組みを国際広報する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-3-1 ○本学の国際展開を明確にし、優秀な留学生の獲得に資するため、学内の国際プログラムの実態(目的・現状・成果)、留学生受け入れ体制(教育内容・住環境)を具体的にホームページに掲載するなど、国際広報を充実させる。	【2】	中期計画を実施している	

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

- (★): 「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
- (◆): 文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
- (*) : 新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析: 「教育」

$$\left(\text{当該法人における大項目「教育」に関する目標の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析: 「研究」

$$\left(\text{当該法人における大項目「研究」に関する目標の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。